

07年度新入職員辞令交付式 理事長あいさつ

「人間を大切にする、 人間をいとおしむ思想」を根幹に

理事長 水戸部 秀利



07年度辞令交付式、坂病院セミナールームにて。円内は祝辞を述べる水戸部理事長

厚生協会だより

2007年5月21日
第283号

発行
(財)宮城厚生協会
〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長澤清光

宮城厚生協会の職員を代表して、皆さんを歓迎し祝います。

皆さんの門出にあたって、3つの点についてお話ししたいと思います。

一、厚生協会の基本的な姿勢・設立理念

宮城厚生協会は、戦後間もない1950年に創設されました。当時、結核を中心に感染症が蔓延し医療保険制度も不十分の中、「病気と貧困の悪循環に陥つてゐる困難な人々を見捨てない医療機関を作りたい」との思いから設立され、当初から「どんなに貧しくても医療を受ける権利がある」と命の平等を掲げて活動してきました。

「無差別平等」の私たちの

医療理念は、差額ベッドを持たず、あくまで公的な社会保障を充実させ、誰もが安心して医療や介護を受けられる仕組みを実現していくというものです。最近、政府の度重なる医療費削減政策で医療機関の経営はどこも厳しい状態です。この宮城厚生協会の経営も同様です。しかし、どんなに厳しくても、医療に差別を持ち込むような「室料差額」は導入しません。

設立理念に沿つて、地域の人々と苦楽を共にし医療や介護を実践する、そこにより強い共感と信頼関係が生まれると思います。私はここに誇りを持っていりますし、みなさんにも是非その主旨を理解していただきたいと思います。

二、患者さんや利用者さんの基本的な見方・考え方

一つ目は、患者さんや利用者さんについての基本的な考え方・考え方についてです。厚生協会の設立趣意書には、「单

に疾病の治療または療養だけが対象となるものではなく、その社会的な疾病を匡正するまでもに発展せしめなければなりません。」とあります。これは、人間の見方として病気や障害の視点として極めて大事なことです。

最近、生活や疾病的自己責任論が横行し、受益者負担の名のもとに、患者窓口負担がとめどなく増やされています。私たちは、「人間は社会的な存在である」という見方を、医療や介護の分野でも基本にすべきという立場をとっています。病気や障害を、生物学的にあることは臓器別にだけらえるような視点ではなく、喜怒哀楽、個性、人格、つまり、時にはひ弱で、時には逞しい一人の人間として総合的にどうぞ、病気や障害もその視点から分析し対応しよといつ立場です。

みなさんの先輩である民医連

(一面からのつづき)

の看護師が始めた「密着ターゲス」というのがあります。農業を営む糖尿病患者さんが、型どおりのカロリー制限や服薬では悪化する一方で、入院も忙しいからと断られ、看護師が患者さん宅で生活を共にし血糖を調べてみました。畠や家畜の世話を一人としていました。朝四時半起床で働き、1400の指示カロリーでは、畠前には低血糖で倒れそうになら」とが判明し、仕事にあわせた食事プランと一緒に作りコントロールが改善したという経験です。約20年前の経験ですが、今や本にもなり全国的にも普及しています。

リハビリ分野でも、障害を抱えた患者さんが退院する前に、スタッフが患者さん宅に訪問して、家屋構造を調べ、安全に暮らしせるよう改修・指導する「退院前訪問」は一般化し、患者家族からも喜ばれています。入職された方々、

〇一の方々も、このよつたな技術を学び、実践を通じて患者さんに役立ててください。

このように、患者さんを社会的な存在として生活や労働の場からといふ観点は、医療スタッフと患者家族の信頼を築いていく上でとても大切です。

三、生活の根幹になる 平和の問題

最後は生活の根幹になる平和の問題についてです。戦後60余り、日本はどの国とも戦争していません。悲惨な戦争の経験から「二度と戦争はしません」と決意した「日本憲法」があるからです。今、国民では「国民投票法案」が審議されています。これは、この憲法を変えるための手続き法です。安倍内閣は、日本国憲法を変えることを明言しています。しかも、手を加えようとしているのは、憲法の条文を「不戦の誓い」であることも明確です。日本をひっくりも

「普通の国=戦争のない国」に変えたいと願っています。

医療や介護の根幹は「人間を大切にする、人間をいとねしむ思想」です。人を殺しません。私たちは「あらゆる戦争とは絶対に相容れません。私たちの「超戦争政策に反対」の立場です。

みなさんは是非、戦争と平和について考えてほしいと思います。平和とは、私たちの今のこの日常です。額に汗して働きその後は、家族や友人と酒を飲んだり食事をしたり、囁くあるいは喧嘩もする、一話したり、時には恋人と愛を語り合ったり、病気になつたり前の日常です。戦争とは人物思いにふける、「…」がこの日常を根っこで破壊するのです。

近年、全人口中に占める65歳以上の高齢者人口が20.7%に達しており「超高齢化社会」として問題視されています。人は年齢を重ねると足腰が弱つたり病気になります。人は年齢を重ねることも自然なことです。そして、その時、病院はどのような医療を提供できるのでしょうか?それは医療の経済性や患者様へのサービスという観点から、予防医学的な活動を重視する医療であると思います。

「人間を大切にする、人間をいとねしむ思想」を根幹にすえて、先輩からたくさん専門技術を学びながら、患者さんに信頼されるプロフェッショナルとして大きく成長するのことを願つて私からのお祝いとします。

辞令交付式での入職にあたって「誓いの言葉」

『二つの心構えを忘れずに』



新入職員代表 薬剤師 吉田 文

要です。まず一つ目は「おもに流れず切磋琢磨し続けるということです。自らの限界と諦めず、妥協せず、常に高い目標を目指し、日々自分を磨き続けなければなりません。それは例えば、一日1時間、勉強をするといったことからでも、始めることができます。続けることこれが大きな力になるはずです。

患者様を第一に考える

患者様を第一に考えることです。そして、もう一つ重要なことは患者様を第一に考えることです。仕事の中のいろいろな局面において、私たちの判断基準は自分個人や院内の都合が先ではなく患者様の満足にあります。この心構えを絶対に忘れることがなく仕事に励んでいくことをモットーとし、私たち新入職員一同は本日の辞令交付式をもって誠実に職務を遂行することを誓っています。

切磋琢磨し続ける

■坂総合病院院長就任にあたって

市場原理優先の政治をはね返し、押し返す力を作りましょっ



宮城厚生協会副理事長 今田 隆一

が強まるなど、私たちを取り巻く環境はまことに厳しくなつてしましました。この数年続いております市場原理優

先の政治は、苛烈な患者・利用者負

22年間にわたりて在籍いた

しました泉病院を離れて坂総合病院の院長に5月1日をもって就任いたしました。前任地での業務を済りな

くできましたのは役職員・友の会のみなさまのご支援とご協力の賜物と

感じております。今後とも従来に増してご指導ご鞭撻をよろしくお願い

申し上げます。

ひとつに頑張つてまいるつもり。

私はひとりではないの任務には大きくなつた。

ひとつには、これまで泉病院での診

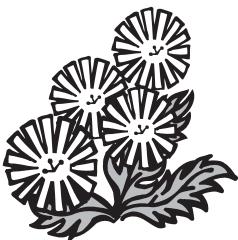
療経験がほとんどないことです。常

勤としては20数年前の研修医時代に

4ヶ月勤務しただけで、そのほかに

は診療応援で週1回循環器外来を数

坂総合病院は一年前リニューアルを完成させ、地域のみなさまに最新の医療技術を新しい環境で提供できるようになりました。しかし一方で医療崩壊や医師・看護師不足の懸念



■泉病院院長就任にあたって

地域の大きな財産として次世代へ



泉病院院長 宮沢 弘明

年間経験した程度です。おなじくございは「浦島太郎」状態にならでしょ

う。もうひとつのハードルは、私の専門が脳神経系ではなく内科（循環器）

であることです。泉病院は自他共に

認める脳神経の病院です。脳神経系以外の医師が院長を担うのはひとつ

の「実験」でああります。かつては彦坂先生がこの重責を担つた

わけですが、私がその職責を十分果たせるかどうか、はなはだ心もとな

い感じがします。しかし、この「実験」

は失敗でした、といつて終わるわけ

には行かないのは明白のことです。

ひとつハーダルがあると思っています。

ひとつには、これまで泉病院での診

療経験がほとんどないことです。常

勤としては20数年前の研修医時代に

4ヶ月勤務しただけで、そのほかに

は診療応援で週1回循環器外来を数の挨拶といったします。



100名を越える列席者でにぎわう会場

没後五〇年初代坂病院院長 『坂猶興先生を偲ぶ会』開催 坂病院のルーツ、原点

3月10日に市内ホテルにて今年没後50年（1957年2月26日逝去　享年54歳）

という節目に初代坂病院院長の「坂猶興先生を偲ぶ会」が100名を越える方々の列席で開催されました。

基礎を築いた人物

第一部では初めに水戸部秀利理事長が挨拶しました。「坂猶興先生は、塩釜の地域医療だけでなく宮城の民主運動そして厚生協会や宮城民医連の基礎を築いた重要な人物です。その足跡をしつかりと記録に留め、次の時代に引き継ぎ、さらに切り開いていく後継者の育成とその運動が大変重要です。」と述べ、ついに「坂の由来を知らない職員も見受けられるとして、長町、泉、古川がいずれも地名なのに何故「坂」なのか、「今回刊行の『記念誌』は坂病院のルーツ、原点を語り継ぐものとして貴重」と紹介されました。

不屈の先輩に学ぶ

来賓挨拶として、大井康氏（塩釜医師会顧問）は坂病院の医師会への日頃の協力への謝辞を述べ坂猶興先生が母校の先輩だったことを自分の歩みと重ねて紹介されました。三升正直氏（元塩釜市長）は

（塩釜医師会顧問）は坂病院の医師会への日頃の協力への謝辞を述べ坂猶興先生が母校の先輩だったことを自分の歩みと重ねて紹介されました。三升正直氏（元塩釜市長）は

塩釜市政の歴史を紹介しながら坂先生が共産党初の塩釜市議として活躍したこと、亡くなつた時の元町公民館での葬儀（三升氏は葬儀主催者の一人）が沿道に地域の人々がずっと並び非常に盛大だったことを紹介し、「坂先生の実績や人望を多くの方に知つてもらいたい」と強調されました。中嶋康博氏（共産党宮城県委員長）は最近刊行された『わが県の日本共産党史』に坂先生の名前が18回も掲載されていましたことを紹介し、「共



『平和、人権、医療を民衆とともに歩み求めた医師—坂猶興先生を偲んで—』
額面1,000円。職員は500円（総務で取り扱っています）

産党的再建に尽力した不屈の先輩であり宮城の民主運動に多大な貢献をされ誇りでありその姿勢に学んでいかなければならぬ」と述べました。

エピソードや歴史 語られる

坂正毅氏▶
「猶興の意志を継ぎたい」



福岡ひろ子さん▶
「初めて投票した
のが坂先生でした」



◀桜井キヨシさん
「家族同様同じテー
ブルで食事しました」



第一部では大窪豊県連会長の献杯で始まり、坂先生ゆかりの方々からその人柄や当時の様々なエピソード、坂病院の歴史等が語られました。何人かご紹介いたします。「往

坂猶興先生の甥、盛岡医療生協前理事長)。桜井キヨシさん(元協会職員)は一緒に働いた時のエピソードとして、25床のベッドを回診するのはいつも夜の8~9時だった

時がんばった人たちの想いを考え、新たに猶興の意志を継いでいきたい」(坂正毅氏)。

坂猶興先生の甥、盛岡医療生協前理事長)。桜井キヨシさん(元協会職員)は一緒に働いた時のエピソードとして、25床のベッドを回診するのはいつも夜の8~9時だった

人が参政権を頂いて初めて投票したのが坂先生でした。」と述べ、「或る晩、夫の新太郎さん(坂病院3代目事務長)を、坂先生に往診して頂きました。

診察後も、直ぐには帰らず、患者が眠るまで居てくれるのでした。また、貧しい人からはお金ももらわず、衣類のない人には衣類を、おムツのない人にはおムツを持って往診してくれる人でした。奥さんが、衣類やおムツなどを包んでお渡しするのを何度も見たことがあります。」と感慨深く語りました。

記念誌のこと

また、記念誌『平和、人権、医療を民衆とともに歩み求め



▲記念誌について紹介する
村口至先生



展示コーナー 熱心に見る▶

診の熱心な先生で庶民の信頼があつた」(高橋浩史氏…元坂病院院長高橋実先生の孫)。息川崎市健康福祉局前局長)。

「タネが全国に広がった。当時がんばった人たちの想いを考え、新たに猶興の意志を継いでいきたい」(坂正毅氏)。

人参政権を頂いて初めて投票したのが坂先生でした。」と述べ、「或る晩、夫の新太郎さん(坂病院3代目事務長)を、坂先生に往診して頂きました。将来を見通し今奮闘していくことであり、私たちは坂先生のようにその時代を見据えた活動をしていかか常に原点に立ち返って引き継いでいくよう努力して参りたいと思いました。」と述べました。

た医師一坂猶興先生を偲んでー」の編纂責任者の村口至先生よりスライドで記念誌編纂取り組み経過も含め本の内容が紹介されました。

最後に山田裕院長(現副院長)が閉会の挨拶をしました。「学ぶことは、過去から学び将来を見通し今奮闘していくことであり、私たちは坂先生のようにその時代を見据えた活動をしていかか常に原点に立ち返って引き継いでいくよう努力して参りたいと思いました。」と述べました。

(編集事務局)

会場には、坂定義先生(私立塩釜病院院長)、鈴木保先生(初代宮城厚生協会理事長)を含めた三名の展示コーナーも設置され列席者は熱心に見入っていました。



受賞作「保育園のこどもたち」

坂総合病院の院内あかつ
き保育園へ勤務して早10何
年!? 忙しいと言いながらも、
趣味を充実させる時間は悲
しいことにたっぷり。さて
その趣味とは。私の場合、
油絵を描くことです。

坂総合病院の院内あかつ
き保育園へ勤務して早10何
年!? 忙しいと言いながらも、
趣味を充実させる時間は悲
しいことにたっぷり。さて
その趣味とは。私の場合、
油絵を描くことです。

東北放送賞受賞

去年の秋、塩釜美術展に出
品した自作『保育園のこども
たち』が「東北放送賞」に!!

趣味とはいえ作品が賞をい
ただけたことはかな
りうれしい」とでした。

題材に、保育園のこ
どもたちを選び、仕
事の特権を大いに活
用させていただきや
いました。仕事も認
められたよくな(ずう
ずうしくてすみませ
ん)、二重の喜びで今
も励みになっています。

学生時代はマンガ家をめざ
していたので、よくコタツに
もぐり、家族が寝静まつた後、
コツコツ描いて雑誌に投稿、
最高はA賞だったかなあ。水
彩もよく描いていました。基
礎を学びたくて通信の「講談

**さわやか
エッセイ**

私と油絵

あかつき保育園 保育士 尾崎みどり

社フェーマスクールズ」も
大金かけて学んでみたし。教
材は今でも私の財産です。

一生のテーマは人間

もちろん毎日絵の事ばかり
やっていません。ただ、好き
なことに時間を費やしている
と仕事のやる気にもつながる
のは確かです。思わずアイディ
アも、日常生活の時にパッと
浮かび「こうすればいいんだ
!!」と一人で自分の閃きに醉
いしきたりもします。

今、私の住まいの一室はキャ
ンパスと物置になっているけ
れど、絵を描く人にとっては
ナイスなマンション生活です
初心者の方もいるので興味
のある方は公民館に問い合わせ
してくださいね。一緒に描き
ましょ。



自宅のアトリエ

(経済面は無視!)。

私にとって一生のテーマは
人間。次にめざすのは「河北
展!」。でも最近忙しくて温
泉巡りに逃げています。好き

なことは色々あるけれど「F
80号」の絵は、完成するのに
2ヶ月はかかるので日々投げ
出したりするのがあります。
今は塩釜市の公民館内で「パ
レットクラブ」油絵教室のメ
ンバーになり、吾妻篤先生の
下で教えていただいている
が、仲間から描く意欲をもら
うこともあります。